

学校関係者評価報告書

東海医療工学専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人セムイ学園東海医療工学専門学校 学校関係者評価委員会は「平成30年学校自己評価表」の結果に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、下記のとおり報告します。

「学校関係者評価」の実施方法について

学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施し、学校関係者評価委員に評価していただいた。学校自己評価表（平成30年度版）と併せてご覧ください。

I 令和元年度 学校関係者評価委員会 開催概要

1. 日 時

令和元年9月14日（土） 11:00～12:30

2. 会 場

東海医療工学専門学校

3. 議 事

- (1) 平成30年度 学校関係者評価の対応状況
- (2) 平成30年度度 自己評価結果について
- (3) 関係者評価委員による評価の実施と公表について
- (4) 意見交換

II 学校関係者評価委員、学校担当者

(1) 委員

構成	氏名	所属
学識経験者	野々垣 常正	東海歯科医療専門学校
病院・施設	竹内 亮太	岡崎市民病院
卒業生	岩佐 優杏	学校法人セムイ学園 東海医療工学専門学校

(2) 担当教職員一覧

氏名	所属・職名
小足 信雄	学校法人セムイ学園 理事長 東海医療工学専門学校 校長
侘美 好昭	東海医療工学専門学校 顧問
大野 健二	救急救命科 学科長
柴尾 隆行	救急救命科 専任教員
廣崎 英和	救急救命科 専任教員
石河 康司	救急救命科 専任教員
大竹 宗也	救急救命科 専任教員
太田 晃二	セムイ学園 総務部長代理兼総務課長
平松 善子	東海医療工学専門学校 教学部教務・学生支援課サブチーフ

III 学校関係者評価委員による意見、提言等

基準1 教育理念・目的・育成人材像

時代のニーズに応じた救急救命士育成のための教育理念・目的、教育方針や育成人物像は明確にされている。救急救命科における「3つのポリシー」を学内外に周知し、今後の教育課程の編成・実施の方針に反映させてほしい。

基準2 学校運営

情報の可視化と共有に関して、どれくらいの効率化が図られたかのか具体的な例示をすると良いのではないかと。

基準3 教育活動

平成29年度より職業実践専門課程認定校に指定されており、大学病院など外部関係者からの評価も取り入れ、「職業教育」のあり方が日々検討されている。また、定期的な教務および講師会議、教育編成会議などを行い、授業評価を考慮した改善が図られている。

オリジナルの国家試験対策講義や定期的な模擬試験の開催など、「救急救命士」資格取得のために、適切かつ十分な指導体制が確立されている。

今後も2年課程の特色を活かした教育活動を検討してほしい。

基準4 学修成果

救急救命士の国家試験合格率は、全国平均をわずかに下回るものの、入学生に対する国家試験の受験率は全国的にも極めて高い成果を修めている。入学生に対する受験率の高さは、本校の学修成果であり、今後も適切な教育のもとに維持してほしい。

また、学修成果として、就職率の向上にも努めてほしい

基準5 学生支援

意見等は特にありませんでした。

基準6 教育環境

教育機器・資器材の購入や修繕の検討・予算化がされ、適宜必要な備品が整備されている。今後も救急救命士育成のための資器材や学生のニーズに応じた教育環境の整備に努めてほしい。また、救急救命士養成校として、南海トラフなどの大規模災害など「災害」に対する認識も高く、防災備蓄品も適切に整備されている。今後も継続して対策を講じてほしい

基準7 学生募集

意見等は特にありませんでした。

基準8 財務

全体に運営は健全に運営されていると感じた。学校の運用安定も必要であるが、学生へのフィードバック（機材や教材）にも多少目を向ける必要があると考えられる。

救命士の養成校としての社会貢献は重要であるので、少しずつでも毎年の器材の補給に努めることが必要と思う。

看護学科の設置に関しては、年次計画の中で器材にも費用がかさむことが予想されるので、中長期的に運営をして貰いたい。

基準9 法令等の遵守

遵守のために、年二回教学に関する事項を重点的に検討し、その結果を教員間で共有できていることは素晴らしいと評価できる。これを運用マニュアル化し、規定として教員すべてが共有できると良いと考えられる。

基準10 社会貢献

意見等は特にありませんでした。

以上、評価委員より示された提言等については、所管部署において、改善策を検討するものとする。